

主体的・対話的で深い学びの授業実践 リフレクションシート（科目「ビジネス実務」）

授業実践の直前と直後において、生徒を3名抽出し、課題に対する思考や様子を比較し分析することで、生徒の変容を記述する。また、授業改善や授業デザインの方策を提案する視点に立って、授業構想の振り返りを行う。そして、新学習指導要領における育成を目指す資質・能力の評価方法の課題を述べる。

抽出生徒の思考の変容		
生徒	課題提示直後の課題に対する思考や様子	授業実践終了時の課題に対する思考や様子
A	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易について理解できており、人に伝えることができていると感じている。 ・ゲーム内容を理解し、よい結果を出したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた資源の中で、モノを有効に使う、仲間と協力する、知恵を使うことで、平等ではない条件の中でも製品を作ることができると感じた。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易についてあまり理解できていないと感じている。 ・口数が少ないので、グループで協力してできるかや不安を感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易は物を作って交換するだけではないと感じた。 ・他国（他のグループ）とも協力し合うことが大切であると感じた。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易についてあまり関心がないと感じている。 ・理解力が乏しく、特に結果を気にしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上手に取引ができた上で、貿易が成り立っていることを実感した。 ・今までは想像だけであったが、ゲームを実践して、売買の大変さを体感することができた。

授業構想のリフレクション	
課題の提示	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標である「世界経済の仕組み」や「貿易の必要性」については、理解させることができた。 ・ゲームを活用して課題に取り組むので、クラス全員が参加することができ、互いの考えを活発に出し合うことができて、深い学びにつなげることができた。
思考のための資料と想定される生徒の活動	<p>【材料1】グループによって用意されている資源が異なることに気付いたグループから、活発に交換の提案をするグループが現れた。</p> <p>【材料2】「なぜそう思ったか」という項目を入れたことで、生徒自身が自分の考えを更に深めることにつながった。</p>
対話と思考（対話を通じた課題解決のプロセス）	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの説明は必要最小限しかしないため、初めはゲーム内容が理解できない生徒が多かったが、理解できたグループが動き始めると、活発に動くようになった。 ・グループ内で意見を出し合い、周囲のグループの様子を観察することで、より効率的に製品を製造する工夫をさせることができた。 ・ゲームという形式をとることで、全員が意欲的に取り組むことができた。
学習の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた資源を有効に使う方法を、グループで探究することができた。その結果、他のグループ（他国）との交換である貿易が始まり、体験から貿易取引の必要性を学習することができた。 ・グループ内で活発な意見を出し合うことで、自分のできる役割を自ら探す生徒が多く見られた。

新学習指導要領における育成を目指す資質・能力を評価するための課題	
①知識及び技術	<ul style="list-style-type: none"> ・「何を理解しているか」は事前・事後アンケートの実施で判断しやすい。「何ができるか」は、グループ内での役割によって差が出てしまうので検討が必要である。
②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・「できることをどう使うか」については、一つの科目での定着を図るのではなく、他科目とも連携することで、知識として定着し、それを活用できるかを図る必要があると感じた。
③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを通して学ぶので、生徒の動きが大変多く、グループでの評価が中心となってしまうため、個人での評価の方法の検討が必要である。